

神明中学校改築基本設計まとめ（案）について

神明中学校の改築について、令和4年5月から開催してきた神明中学校校舎改築検討懇談会（以下、「懇談会」という。）での意見交換を踏まえ、改築基本設計のまとめ（以下、「まとめ（案）」という。）を行ったので報告する。

1 まとめ（案）（別紙参照）の主な内容

（1）改築規模

中学校 10 学級（最大 12 学級まで対応）

延べ面積約 7,769 m²

（2）改築基本方針（ビジョン）

○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した、柔軟で創造的な学校

○「神明の杜」にふさわしい、環境に優しく、安全で快適に過ごせる学校

○学校と地域の「学びのプラットフォーム」として、地域と共に行動する学校

（3）校舎配置の方針

校舎を分離せず、校庭も整形に配置可能な 2 案を比較検討した。懇談会での意見交換や改築基本方針を踏まえ、校舎環境や校庭環境、周辺住環境への影響等の面から、現状と同じ、校舎を西側、校庭を東側にする配置を目指すべき案とする。なお、プールについては、外部施設を利用する場合、時間割の調整が難しいこと等を考慮し、整備することとする。

2 改築基本設計策定に向けた取組

第7回までの懇談会で検討した改築基本方針や校舎配置の方針等について、第8回懇談会で報告し、意見交換をした上で、まとめ（案）を策定した。

まとめ（案）については、1、2月に地域住民・保護者を対象とした説明会を開催し、周知を図るとともに、意見を聴取した。

これらの意見や、懇談会での議論を踏まえ、必要な修正を加え、令和5年3月末を目処に基本設計を策定する。

3 今後のスケジュール（予定）

令和5年3月	第9回改築検討懇談会
令和5年3月	基本設計の策定
令和5年度～	基本設計説明会
	実施設計

杉並区立神明中学校 改築基本設計 まとめ(案)

神明中学校の現校舎は、昭和36年に校舎を建設後、増築を重ねた学校で、最も古い校舎で築61年となり、校舎の老朽化による改築時期のため、令和3年度に策定された区の実行計画に基づいて、改築することになりました。

令和4年5月から、学校関係者、地域関係者、学識経験者等で構成する「神明中学校校舎改築検討懇談会」を開催し、改築基本方針や新校舎の配置計画、平面計画等を含む改築基本設計の策定に向けて取り組んでまいりました。この度、これまでの検討状況を踏まえて、まとめを行いました。

今後、さらに保護者や地域の方々等からのご意見を伺いながら、改築基本設計の策定に取り組んでまいります。

令和5年1月 杉並区教育委員会

目次

【1】基礎的条件	(1)改築に至る経緯	3
	(2)敷地の概要	①用途地域・地区等 4 ②周辺環境 5
	(3)既存施設の概要	6
【2】計画条件	生徒数・学級数の推移と将来推計	7
【3】改築基本方針	全体像	8
【4】施設整備計画	(1)校舎配置(案)の検討①	9
	(2)校舎配置(案)の検討②	比較検討表 10
	(3)校舎配置(案)の方針について	11
	(4)神明中におけるプール整備について ①	12
	神明中におけるプール整備について ②	13
	神明中におけるプール整備について ③	14
	(5)想定整備スケジュール(予定)	15
【5】検討経過	校舎改築検討懇談会での検討経過	16

【1】基礎的条件 (1)改築に至る経緯

神明中学校の主な状況

昭和22年	開校(下荻中学校として桃井第二小学校内に開設)
昭和23年	神明中学校と校名改称。現在の校地に移る。
昭和34年	体育館建設
昭和36年	現校舎建設
昭和40年	プール建設
昭和53年	校庭側の鉄筋校舎建設
平成21年	校舎耐震補強工事

改築計画の具体化(区)

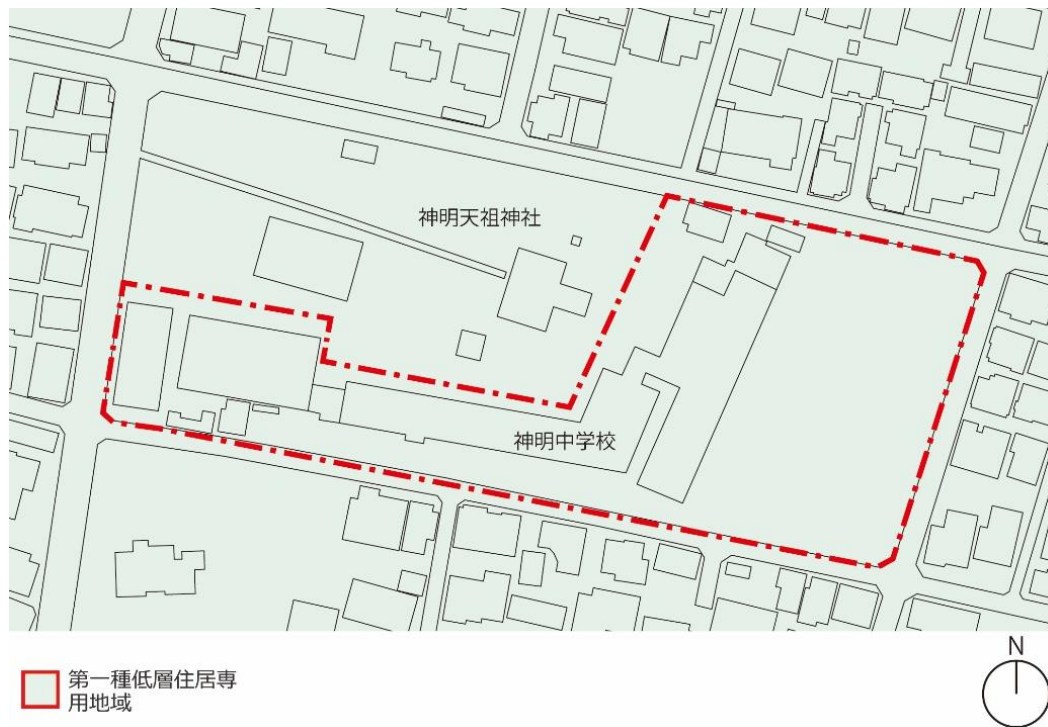
令和3年度 杉並区実行計画により改築事業の計画化



令和4年度 神明中学校改築検討懇談会開催・基本設計策定

【1】基礎的条件 (2) 敷地の概要 ① 用途地域・地区等

■ 都市計画図



■ 用途規制等

用途地域	第一種低層住居専用地域
指定建蔽率	50%
指定容積率	100%
防火地区	準防火地域
高さ限度	10m
高度地区	第1種高度地区
日影規制	3h-2h/1.5m
備考	建蔽率は角地緩和+10%あり 敷地面積の最低限度:70㎡ 高さの限度は学校規制緩和あり

【1】基礎的条件 (2)敷地の概要 ②周辺環境

■周辺環境



凡例



対面通行



出入口

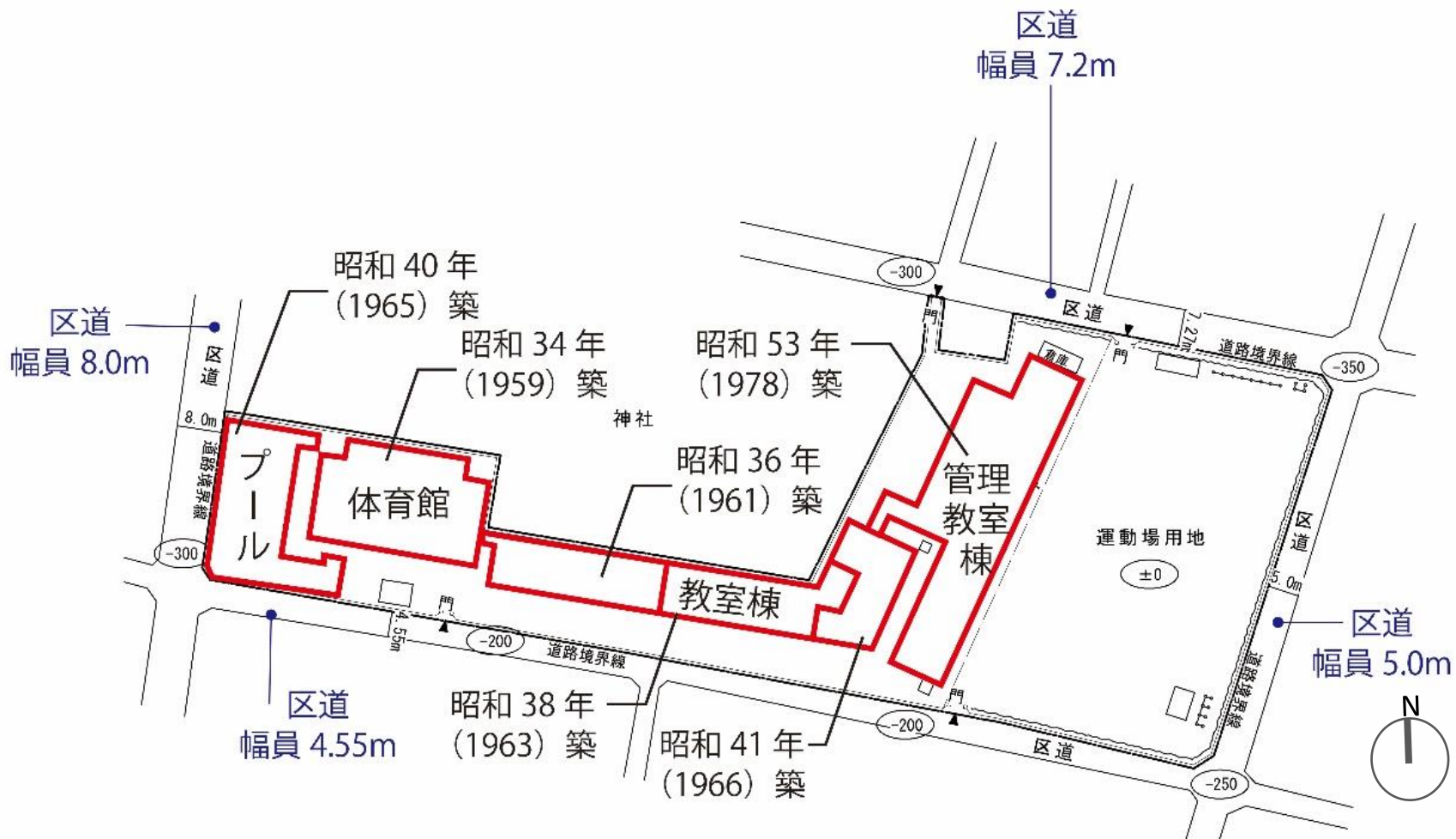


周辺写真

①緑豊かな神社が隣接しています。
②校地が不整形で改築にあたっては工夫が必要です。

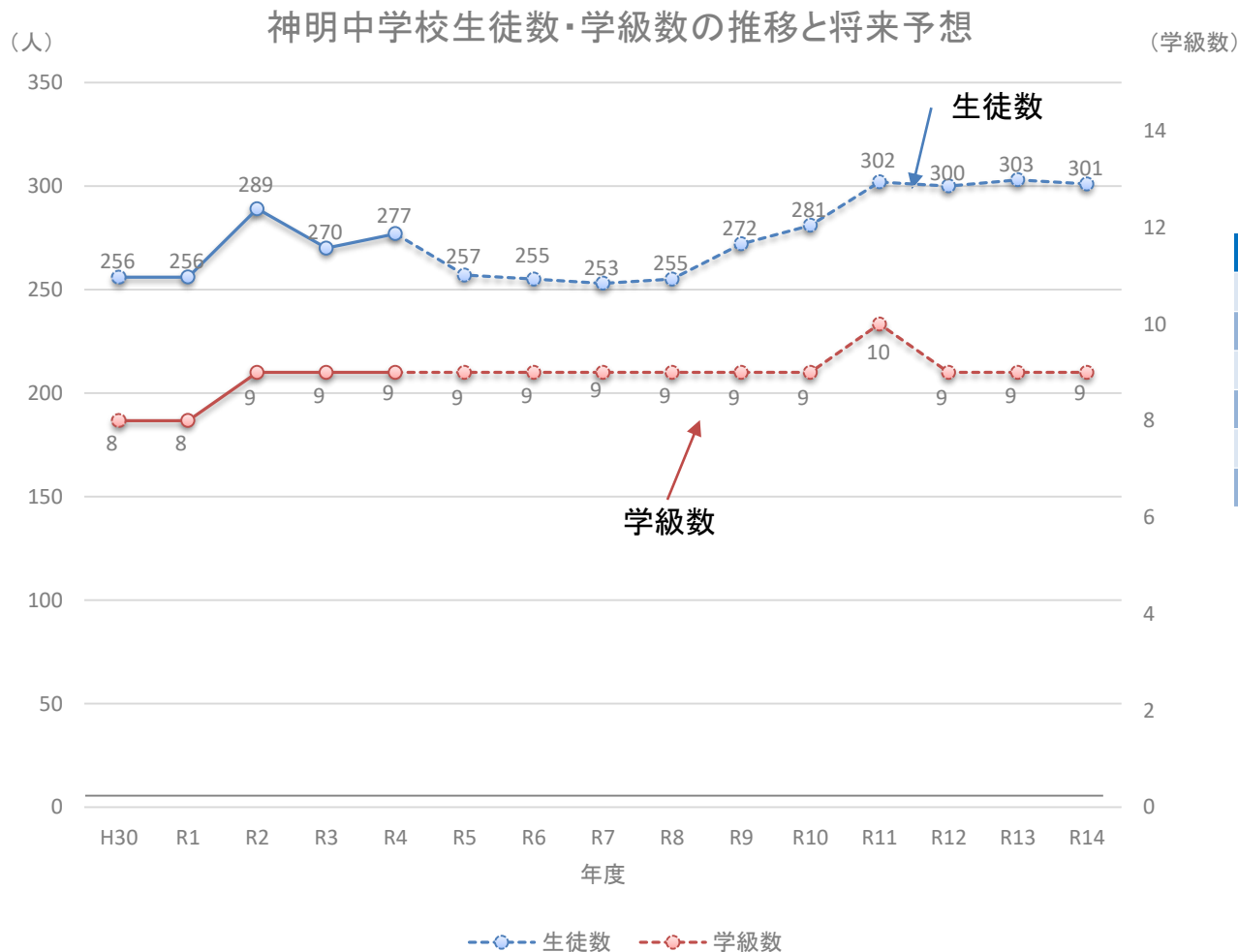
【1】基礎的条件 (3) 既存施設の概要

敷地面積	校舎面積	運動場面積	体育館面積
8,226㎡	5,361㎡	3,692㎡	585㎡



【2】計画条件 生徒数・学級数の推移と将来推計

● 生徒数、学級数の将来の推計を行い、改築校の規模を最大10学級と想定しました。※
それに対応するため、普通教室を10教室設置し、さらに推計以上の学級数の増加や少人数学習などにも対応できるよう、普通教室に転用可能な少人数教室等を設置します。



【参考】 杉並区学級編制方針

学級数	中学校 生徒数	中1加配 生徒数
1学級	1～40	36～40
2学級	41～80	71～80
3学級	81～120	106～120
4学級	121～160	141～160
5学級	161～200	176～200
6学級	201～240	211～240

※令和4年度までは実数（実線）
令和5年度以降は推計値（点線）

【3】改築基本方針 全体像

<ビジョン>

< 目 標 >

< 取 組 >

【ビジョン1】
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した、柔軟で創造的な学校

目標Ⅰ
学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的で深い学びができる学校づくり

目標Ⅱ
将来にわたって使い続けられる柔軟性・可変性のある学校づくり

目標Ⅲ
教職員や支援者が活動しやすい学校づくり

目標Ⅳ
自然環境に配慮し、周辺環境と調和した学校づくり

目標Ⅴ
安全・安心で居心地の良い生活空間としての学校づくり

目標Ⅵ
学校の伝統と特色を活かし、世代を超えた交流・学び合いの活動を支援する学校づくり

目標Ⅶ
地域の防災拠点としての十分な機能を備えた施設整備

【ビジョン2】
「神明の杜」にふさわしい、環境に優しく、安全で快適に過ごせる学校

【ビジョン3】
学校と地域の「学びのプラットフォーム」として、地域と共に行動する学校

- 取組A 多様な教育内容・教育方法に対応できるスペースの確保
- 取組B ICT教育環境、校内情報ネットワーク、学校図書館を中心としたラーニングセンター機能の充実
- 取組C 行事や部活動を活発に行える環境の整備と生徒の生活空間に配慮した施設計画
- 取組D 改築工事期間中の教育活動に配慮した工事計画
- 取組E 新たな教育内容や教育方法、地域のニーズの変化に柔軟に対応し、将来の学級数の変化に対応できる施設計画
- 取組F シンプルで施設の維持管理がしやすく、こころの故郷となる校舎(まなびや)
- 取組G 授業準備や授業、生徒指導がしやすく、また教職員の活発な交流や生活空間に配慮した施設計画
- 取組H PTAや学校支援本部、神明クラブをはじめ学校運営や教育を支える支援者の活動に配慮した施設計画
- 取組I 神社の緑や敷地の形状を活かし、住宅街の風景にとけこむ学校
- 取組J 閑静な住宅街の生活環境に配慮した施設計画
- 取組K 省エネルギーや自然エネルギーなど持続可能で環境に配慮した施設計画
- 取組L 生徒と一般利用者の導線の区分け等、安全面に配慮し、生徒や教職員が安心して過ごせる配置計画
- 取組M 地震等の災害に対する安全性を確保した施設
- 取組N 学校を支える地域とのつながりを重視し、地域のコミュニティの核となる施設
- 取組O 多様な利用者のためにユニバーサルデザインに配慮し、地域開放の際のセキュリティに配慮した施設計画
- 取組P 地域の防災拠点として震災救援所として必要な防災設備の整備
- 取組Q 避難や救援活動が円滑に行える施設

【4】施設整備計画(1)校舎配置(案)の検討①

神明中の校地は不整形であることから、校舎と校庭をどのように配置をしたらよいか、事務局内で検討し、校舎を分離することなく、校庭も可能な範囲で整形にするために、敷地の南側に一直線に校舎を配置する「I型」と、現在の校舎と同じ配置の「L型」を懇談会に提案いたしました。

また、杉並区立学校施設整備計画において、現在学校毎に設置されているプールのあり方について、多方面から検討することとしているため、I型・L型案それぞれにプールのあり・なしの計4案を提案いたしました。



既存	I型-1(体育館東側・プールあり)	I型-2(体育館東側・プールなし)	L型-1(体育館西側・プールあり)	L型-2(体育館西側・プールなし)
<p>▲ 正門 ▲ 車両出入口 校舎延べ面積：約5,496㎡ ▲ 通門 ▲ 校庭 校舎有効面積：約3,050㎡</p>	<p>▲ 正門 延べ面積 ▲ 車両出入口 延べ面積 校舎延べ面積：約7,930㎡ ▲ 東側出入口 延べ面積 ▲ 校庭 校舎有効面積：約2,580㎡</p>	<p>▲ 正門 延べ面積 ▲ 西側出入口 延べ面積 校舎延べ面積：約7,640㎡ ▲ 南側出入口 延べ面積 ▲ 校庭 校舎有効面積：約2,750㎡</p>	<p>▲ 正門 延べ面積 ▲ 車両出入口 延べ面積 校舎延べ面積：約8,065㎡ ▲ 東側出入口 延べ面積 ▲ 校庭 校舎有効面積：約2,600㎡</p>	<p>▲ 正門 延べ面積 ▲ 車両出入口 延べ面積 校舎延べ面積：約7,880㎡ ▲ 南側出入口 延べ面積 ▲ 校庭 校舎有効面積：約2,750㎡</p>
工事期間(予定)※	・77か月	・73か月	・59か月	・55か月
仮設校舎利用期間	・3年5か月	・3年5か月	・3年4か月	・3年
解体・仮設・改築に係るコスト(予定)※	・約54億円 △地下あり △プールあり △既存校舎改修あり △仮設校舎あり(3F建て、約2,886㎡) △工期比較的最長	・約52億円 ○地下なし ○プールなし ○既存校舎改修あり △仮設校舎あり(3F建て、約2,886㎡) △工期比較的最長	・約54億円 △地下あり △プールあり ○既存校舎改修なし △仮設校舎あり(3F建て、約5,089㎡) ○工期比較的最短	・約53億円 ○地下なし ○プールなし ○既存校舎改修なし △仮設校舎あり(3F建て、約5,089㎡) ○工期比較的最短



プールの有無でI型・L型それぞれの諸室の配置に大きな違いがなく、校舎配置の判断に影響が少ないことから、まず、校舎配置について検討を行いました。校舎配置の方針がまとまったあと、プール整備の有無について議論することといたしました。

【4】施設整備計画 (2)校舎配置(案)の検討 比較検討表

校舎配置案ごとの特徴比較表

凡例： 懸念事項

既存		I型(校庭北側・体育館南東側)	L型(校庭東側・体育館南西側)
<p>▲ 正門 ▲ 車両出入口 校舎延べ面積：約5,496㎡ ▲ 通用門 ■ 校庭範囲 校庭有効面積：約3,050㎡</p>		<p>▲ 正門想定位置 ▲ 車両出入口想定位置 校舎延べ面積：約7,930㎡ ▲ 開放入口想定位置 ■ 校庭範囲 校庭有効面積：約2,580㎡</p>	<p>▲ 正門想定位置 ▲ 車両出入口想定位置 校舎延べ面積：約8,065㎡ ▲ 開放入口想定位置 ■ 校庭範囲 校庭有効面積：約2,600㎡</p>
比較項目		特徴	
改築基本方針 該当番号		特徴	
1 校舎環境	教室配置	I, II, III	・普通教室は2Fに横並び ・特別教室は東西の2F・3Fに分散
	窓先の環境、日照、採光	I, IV, V	・普通教室は南側(道路側) ・共用部(廊下)は明るい
	通風	I, IV, V	・自然通風がとりやすい
	居住性(普通教室)	I, III, V	・普通教室が道路側に面し明るい近隣の見合に配慮必要
	他学年の普通教室前通過	I, V	・あり
	管理	管理諸室の連携 セキュリティ	III, V III, V, VII
2 校庭環境	校庭配置・形状・広さ	I, VII	・既存より狭くなる(約470㎡)
	日照	I, IV	・冬季は終日日影となる部分がある
	アクセス・動線	I, III, VII	・正門からのアクセスが良くない
	プール	I, II	・東側、体育館上部に配置
3 周辺環境	日影	IV	・既存不通格が改善される ・冬季の午後、東側住宅に日影が生じる
	周辺への圧迫感	IV	・南側：既存より近くなるが低くなる ・4Fとなる南東角の影響が大きくなる
	校庭の音・砂ぼこり	IV	・北・東側に影響が想定され、舗装仕様について検討が必要
	周辺環境とのつながり	IV, V	・昇降口から神社の緑が見える ・普通教室の廊下から神社の緑が見える
4 地域開放	地域利用諸室のまとまり	III, VI	・東側B1F・1F・3Fに分散
	セキュリティ	III, V, VII	・開放エリアが複数の階にあり工夫が必要
	災害時の対応	VII	・体育館が地下レベル(-3m)、防災倉庫と階が異なり、開放諸室と遠いが、校庭に近い
	将来の柔軟性	II	・普通教室エリアと特別教室エリアが混在しセキュリティラインの変更が難しい
5 工事計画	工事中の運動施設	V	・新設体育館・プールを利用できる
	校舎の運用	I, V	・仮設校舎、既存校舎、新体育館の併用
	工事中の校庭	V	・校地内に無し
6 仮設校舎環境	教室環境	I, V	・普通教室は2・3F東西にまとまった配置で工事エリア遠い ・特別教室及び新校舎、既存校舎の一部に分散。別棟へは1Fからしかアクセスできない。既存校舎の改修が必要。
	体育館(アリーナのみ)	I, V	・新設体育館 24m×30m (既存体育館 15.8m×27.0m)
	給食	V	・既存校舎を利用 ・給食運搬時に外部を経由するため衛生面の配慮が必要
	校内動線	V	・3つの棟に教室が分かれ移動しにくい
	工事エリア	V	・建替期間に複数回工事エリア・工事車両動線が変更となる
工事期間(想定)※		・77か月	・59か月
仮設校舎利用期間		・3年5か月	・3年4か月
解体・仮設・改築に係るコスト(想定)※		・約54億円 △地下あり △既存校舎改修あり △仮設校舎あり(3F建て、約2,886㎡) △工期比較的長い	・約54億円 △地下あり ○既存校舎改修なし △仮設校舎あり(3F建て、約5,089㎡) ○工期比較的短い

【4】施設整備計画 (3)校舎配置(案)の方針について

＜改築検討懇談会での主な意見＞

◆I型案について

- ・工事中に新旧体育館を使え、運動できる場所が確保される点が良い。
- ・防災の観点から見ると、体育館と校庭が一体のほうが良い。
- ・南側の世帯に対して圧迫感があるのではないか。
- ・教室が横並びになると生徒の管理がしやすい一方で、他学年が常時交わることの難しさもある。
- ・休み時間に全学年が狭い廊下で一斉に出ることは、安全面で懸念がある。

◆L案について

- ・職員室や保健室が校庭に面している点で安全性が高い。また、普通教室や管理諸室、地域開放のゾーニングが明確になっている。
- ・現在とほぼ同じ校舎配置なので、近隣の方々への影響が比較的小さいのが良い。また、校庭の南側が開いている点も良い。
- ・全体工事期間が比較的短い点が良い。

◆共通

- ・校庭面積をできるだけ広く確保してほしい。

＜区の見解＞

- ・第一種低層住居専用地域であり、周辺住環境への配慮が必要です。また、神社が隣接している特徴を生かすとともに、周辺環境と調和した校舎の計画が望ましいと考えます。
- ・教室エリア、管理エリア、地域開放エリアなどのゾーニングを適切に行い、それぞれの活動に配慮した平面計画が望ましいと考えます。
- ・改築により校庭が狭くなる可能性があります。部活動や地域活動が活発な神明中において、校庭の面積を可能な範囲で確保する声が多いことは理解しています。
- ・工事期間やコストについても課題であると考えます。

改築検討懇談会との意見交換や改築基本方針を踏まえ、①周辺住環境の変化が比較的少ないこと、②普通教室や管理諸室、地域開放部分などが適切にゾーニングされていること、③全体工事期間が比較的短いこと等から、校舎を現行とほぼ同じ**L案**を目指す校舎配置とします。

一方で、校庭の面積の確保や地域活動、コストに対する意見もあり、区としても課題であると考えることから、それらを十分に踏まえ、今後検討を進めていくこととします。

【4】施設整備計画 (4)神明中におけるプール整備について ①

	メリット	デメリット(課題)
プールあり	<ul style="list-style-type: none"> 授業を組みやすい 移動時間がかからない 災害時の生活用水として使用可能 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の水質管理・安全管理負担 天候によるため、計画的な実施が困難 改築費、改修費等の財政負担 体育館が地下1階 ※
プールなし	<ul style="list-style-type: none"> 教員の水質管理・安全管理の負担軽減 改築費、改修費等の財政負担軽減 体育館が1階 ※ <p><民間屋内プールの場合></p> <ul style="list-style-type: none"> 計画的に授業実施可能 水泳教育の向上(専門インストラクター指導の場合) 	<ul style="list-style-type: none"> 移動に時間がかかる、移動時の安全確保策が必要 授業の組み方に工夫が必要 受入先施設との調整 水泳授業を委託する場合、規模によっては、経費増の可能性あり 災害時の生活用水の確保(地下ピットを活用した貯水槽等で対応)

<改築検討懇談会での主な意見>

※ 神明中改築の場合のメリット、デメリット

<プールあり>

- ・毎年先生が時間割を組んで、年間で時数を作る労力、負担の大きさは、水質管理・安全管理とは比べものにならないくらい大変なのではないか。
- ・民間施設の場合、恒久的に使用はできるのか。
- ・災害のときは水が大事である。プールを作らない場合、ピットを整備し、水を入れるとしてもプールは必要ではないか。

<プールなし>

- ・屋外プールは使用期間が短く、無駄が多い。通年使用可能な温水プールを作らないのであれば、外部施設を使ったほうが良い。
- ・外部の専門インストラクターに教えてもらった方が生徒にとっても良いのではないか。
- ・屋外プールのデメリットは、子どもが熱中症になること。見学する生徒も熱中症になりそうになることがある。
- ・体育館が1階に来るのは、通常の利用や防災の観点から有効ではないか。

【4】施設整備計画 (4) 神明中におけるプール整備について ②

	自校プール整備	他校活用(屋内) 教員指導・バス移動	民間施設(屋内) 外部指導・バス移動	大宮前体育館(屋内) 外部指導・徒歩移動
水泳授業の計画的実施	△ 天候に左右されるため、計画的実施は困難。	○ 屋内のため、計画的実施可。	○ 屋内のため、計画的実施可。	○ 屋内のため、計画的実施可。
教員負担軽減 (水質・安全管理)	△ 水質管理や安全管理は今まで通り。	△ 当該校の水質管理の負担は軽減されるが、受け入れ先は負担が増加。	○ 施設が管理しているため、負担は軽減される。	○ 施設が管理しているため、負担は軽減される。
教員負担軽減 (時間割)	○ 自校で実施のため、変更には柔軟に対応可。	△ 授業の時期や時間が比較的限定される。条件によっては、時間割の変更に課題。	× 授業の時期や時間が限定される。条件によっては、時間割の変更に課題。	× 授業の時期や時間が限定される。条件によっては、時間割の変更に課題。
水泳教育の向上	—	—	○ 水泳専門のインストラクターが指導するため、専門的指導可能。	○ 水泳専門のインストラクターが指導するため、専門的指導可能。
その他の課題	—	・移動時間を含めると、授業時間は3時間必要。	・授業時間の確保。 ・恒久的な施設の確保。 ・外部指導を入れていない学校との公平性。 ・生徒数・実施回数等によっては、自校整備より費用が掛かる。	・授業時間の確保。 ・授業を学年で実施する場合、プールがやや狭い。 ・2クラスで授業を実施した場合、授業回数が多くなり、時間割変更の負担大。 ・施設利用者の理解。 ・外部指導を入れていない学校との公平性。 ・移動時の安全対策。
長期的な 実行可能性	○	×	△	△

【4】施設整備計画 (4) 神明中におけるプール整備について ③

＜改築検討懇談会での意見＞

- ・プール整備とは別に、水泳の授業を充実させるためにどうことができるのかということは引き続いて考えていかななくてはならない。そういう中で民間施設や学校以外の力の活用ということも考えていく必要があるのではないか。
- ・プールを整備するという教育委員会の方針は理解できるが、プールを作ることで費用が1～2億円掛かるという重みを認識してほしい。
- ・専門のインストラクターが非常に効率よく水泳の授業をやっているのを見て、民間を活用しても良いと考えるようになった。
- ・神明の地域の学校力や、教育力を高めていくためにプールが必要かという論点のほうが重要なのではないか。
- ・プールを作るのであれば、熱中症予防の日除けの問題など生徒への負担などについて工夫してほしい。
- ・学校のプールを水泳以外の用途で利用できないか検討してほしい。

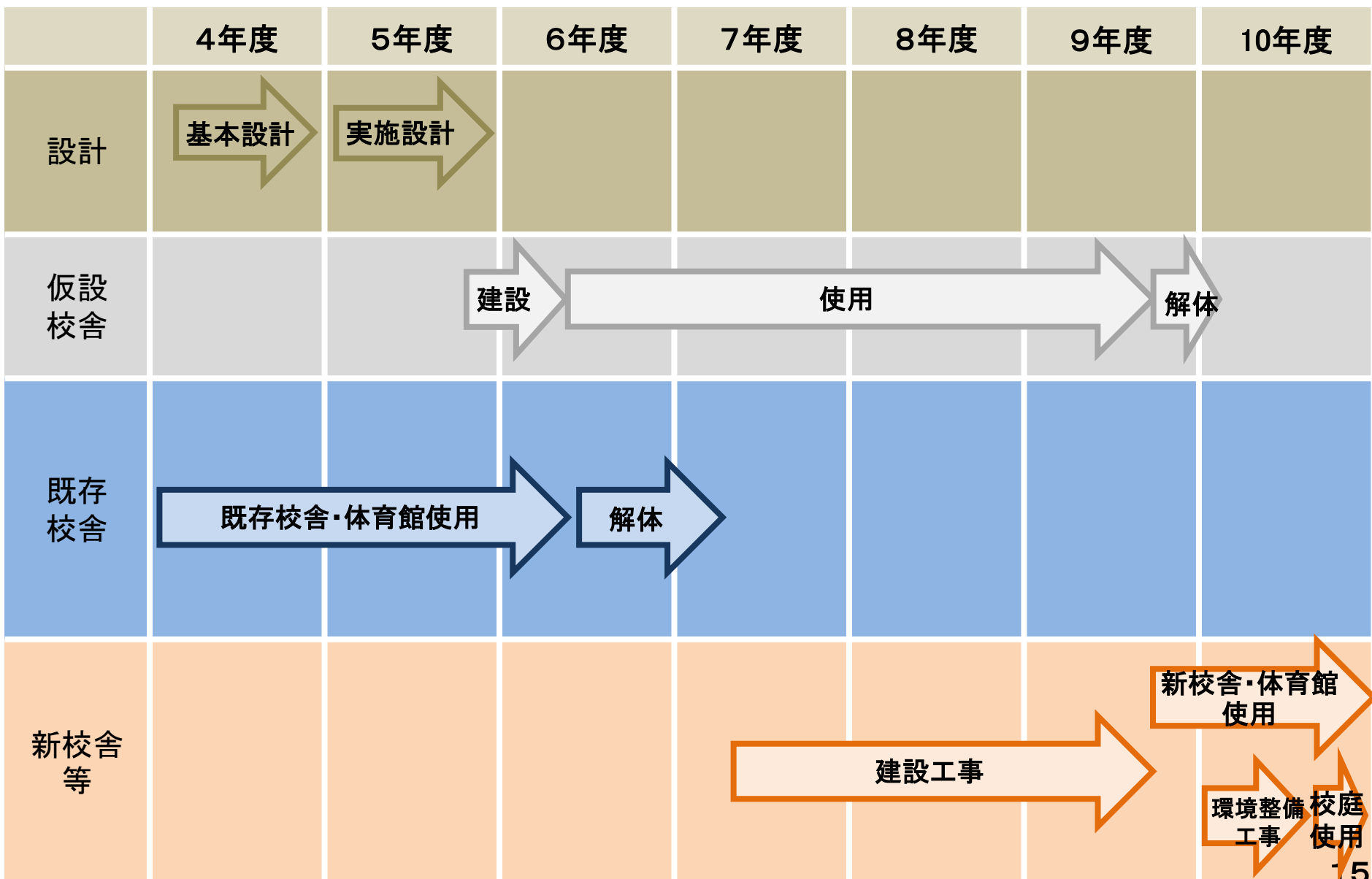
＜区の見解＞

懇談会と並行して、関係機関と協議を進めるとともに、これまでの懇談会での意見を踏まえ、教育委員会内で協議を行いました。

外部施設を活用する場合、移動時間がかかることや施設の利用時間帯が制限されることなどにより、教科担任制である中学校では、時間割の調整が難しく、他のカリキュラムへの影響を考慮すると、長期的に現行の水泳授業の水準を維持することが困難であることから、**プールを整備すること**といたします。

【4】施設整備計画 (8) 想定整備スケジュール(予定)

※ 今後のスケジュールは変わる可能性があります。

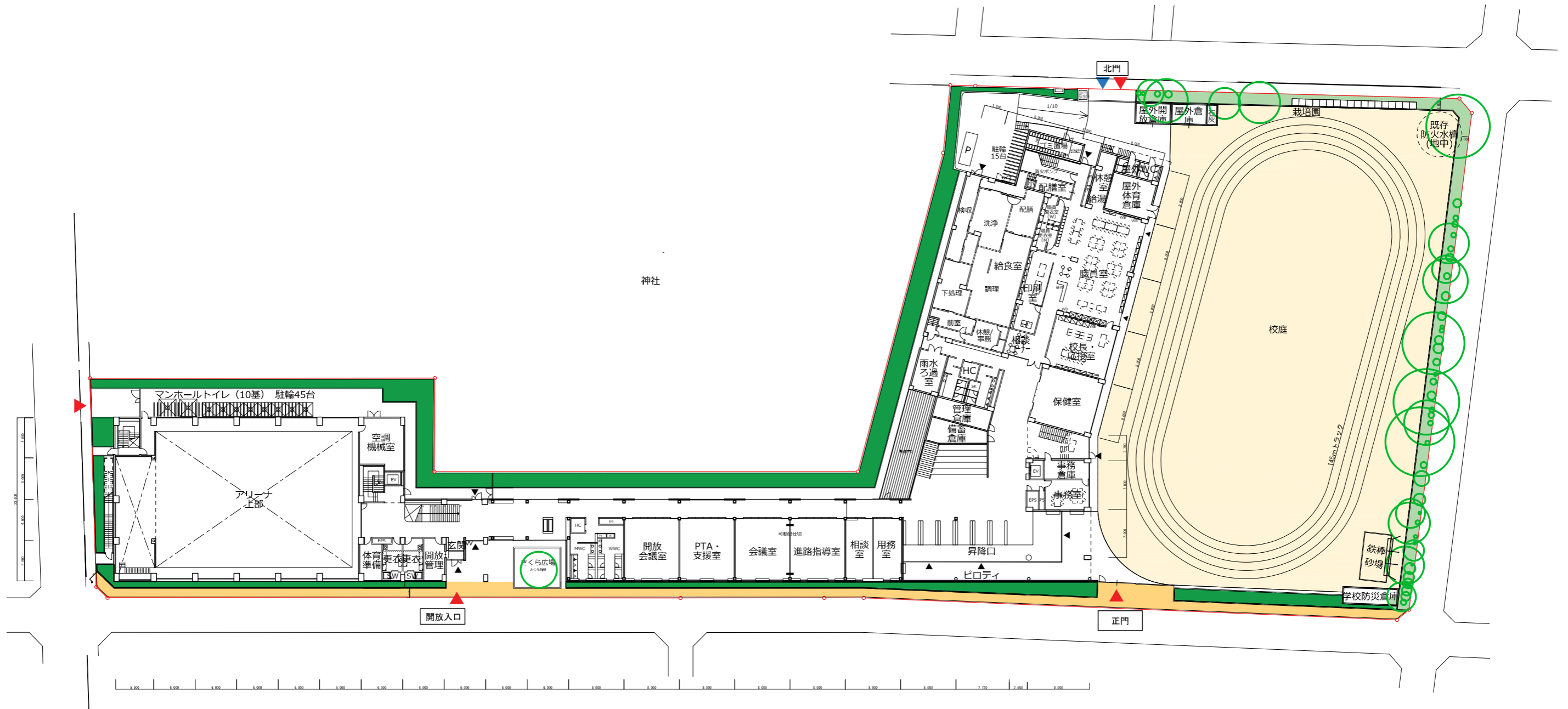


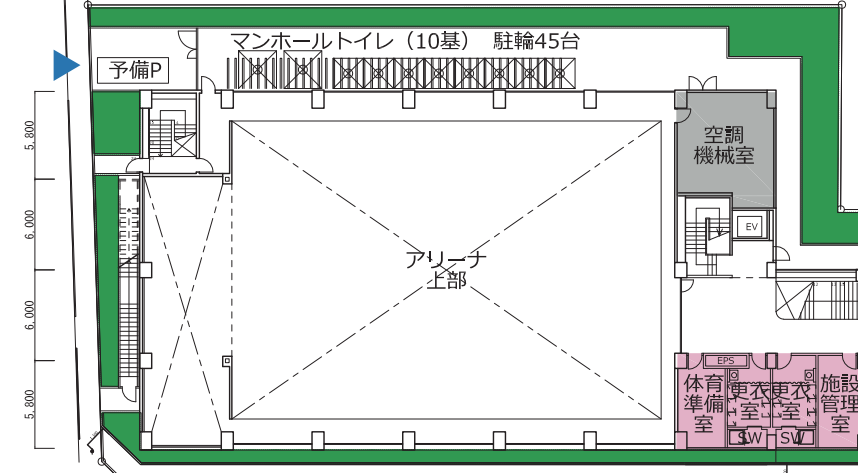
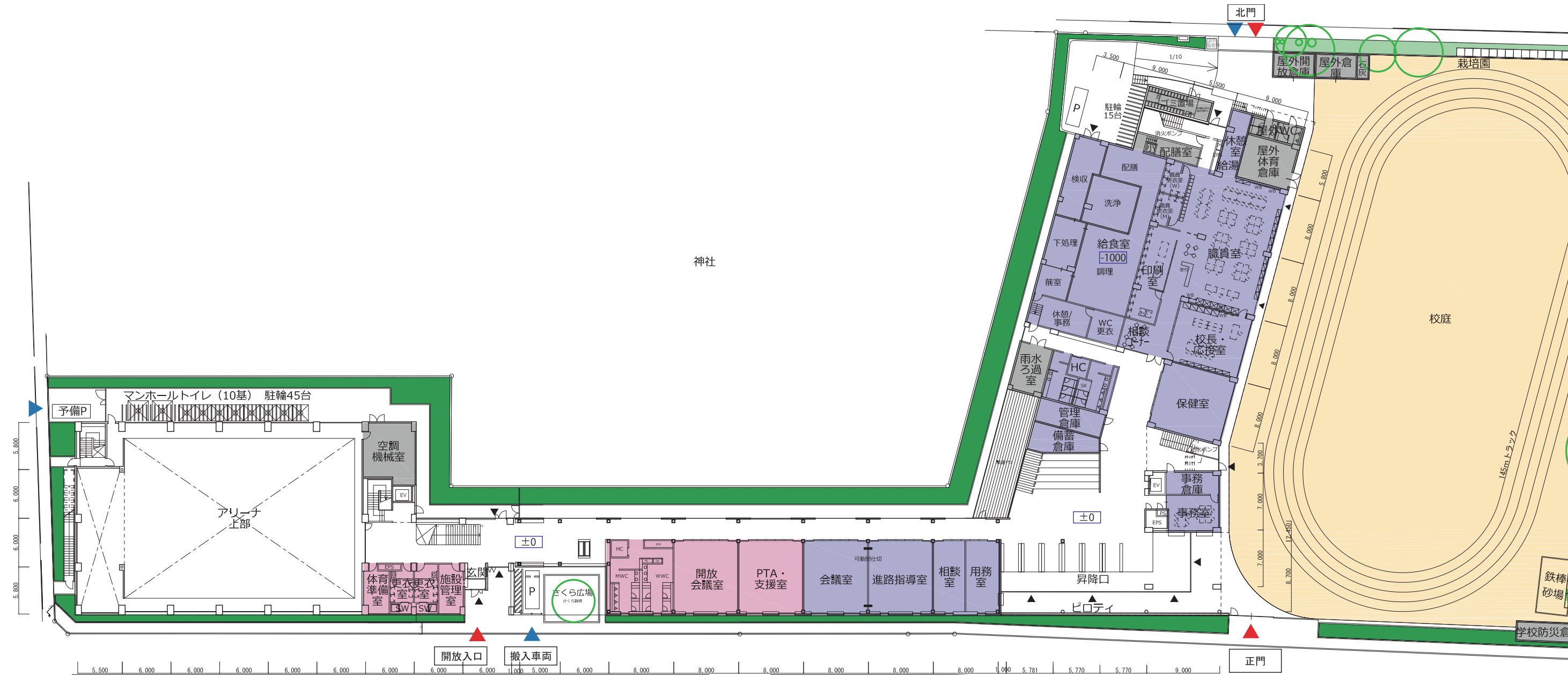
【5】検討経過 校舎改築検討懇談会での検討経過

	日時・場所	主な内容	
第1回	令和4年5月10日(火) 午前10時～11時55分 @神明中学校 体育館	○神明中学校の特色について	○神明中学校改築の概要について
第2回	令和4年6月24日(金) 午後2時～3時47分 @神明中学校 体育館	○改築基本方(たたき台)針について	○計画地の概要について
第3回	令和4年8月5日(金) 午後2時～4時 @施設見学	○施設見学(杉並区立松溪中学校、杉並区立井草中学校)	
第4回	令和4年8月25日(木) 午後2時～4時13分 @神明中学校 体育館	○改築基本方針(案)について	○校舎配置案について
第5回	令和4年10月4日(火) 午後2時～4時24分 @天沼区民集会所 第3・第4集会室	○改築基本方針について	○校舎配置案について
第6回	令和4年11月8日(火) 午後2時～4時9分 @神明中学校 体育館	○校舎配置について	
第7回	令和4年12月13日(火) 午後2時～4時30分 @神明中学校 体育館	○プールについて	○平面図案について

～校舎改築検討懇談会委員(順不同・敬称略)～

団体名等	氏名	団体名等	氏名	団体名等	氏名	団体名等	氏名
法政大学 特任教授	陣内 秀信	松庵町会	安藤 恵子	神明中学校 地域教育推進協議会	長張 健二	青少年委員	栗原 由香理
天沼中学校 元校長	池田 爲大	宮前三丁目町会	佐久間 裕子	神明中学校 地域教育推進協議会	多々納 誠子	桃井第二小学校長	碓 寛
荻窪中央町会	水野 珠実	神明中学校PTA	三浦 聡子	桃井第二小学校 桃友会	小宮山 和美	荻窪小学校長	西脇 裕高
南荻窪会	大林 秀雄	神明中学校学校 運営協議会	森戸 晋	荻窪小学校PTA	羽場 真理	高井戸第四小学校長	加納 直樹
神明町文化会	光田 稔	神明中学校学校 運営協議会	杉山 善之	高井戸第四小学校 PTA	坂井 初枝	松庵小学校長	戸口 満
西荻窪町会	半田 明子	神明中学校 学校支援本部	清水 美穂	松庵小学校PTA	吉井 隆麿	神明中学校校長	山内 清一
西荻南中央会	芳賀 宏	神明中学校 学校支援本部	石井 陽	青少年委員	土佐 愛	神明中学校副校長	中里 勝司





1F

B1F

S=1:500

※本図面は検討段階のものであり、各種手続き・届出等により変更となる可能性があります。



S=1:500

※本図面は検討段階のものであり、各種手続き・届出等により変更となる可能性があります。